



# 建築人

3

2020



大阪ホンマもん

# 建築人

# 3

2020

## 目次

2	大阪ホンマもん
4	インフォメーション・事業案内
6	動静レポート
7	Topics
8	建築人 徳岡昌克
18	Gallery 建築作品紹介 西大和学園学生食堂リニューアル工事 設計 コンパス建築工房 施工 ヒロタ建設
	CENTRAL PATIO 設計 マニエラ建築設計事務所 施工 加藤組
21	記憶の建築 松隈 洋 北海道大学クラーク記念会館 一九五九年 北の台地に根ざした近代建築
22	理事会報告 建築相談室から 編集後記

### 「近畿建築祭から全国大会へ」

事業部門長 徳岡 浩二



大阪府建築士会が行う総会、全国大会などの全体事業の企画、実施を担う事業部門は、青年委員会、女性委員会、国際委員会、賛助会委員会、シニア委員会などで構成され、それぞれ講習会、見学会などの事業も行なっています。今年は近畿建築祭を十月十七日土曜日に大阪工業大学の協力により常翔ホールで開催するため、事業部門の委員が中心となり、大阪府建築士会の委員が一丸となって取り組むとともに、二〇二五年大阪・関西万博に合わせて全国大会を大阪で開催するための準備組織を構築することにも取り組んでいます。さまざまな会員懇親の場を設けるだけでなく、その輪を釜山広域市建築士会との長年の交流による信頼関係の醸成、長野県建築士会との情報交換、交流事業にも進展させるよう取り組んできました。今後さらに中国・上海やベトナム・ホーチミンなど海外の建築関係団体との連携協定を発展させるために、事業部門の機能強化を図り、委員の増強、賛助会員企業の新規参画をお願いしていきたいと考えています。事業および委員としての皆さまの参加を歓迎いたします。

### 大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

大阪市内を南北に縦断する御堂筋。北は梅田から南の商業地である難波までを結ぶ全長およそ四kmを、幅員四三・六mの六車線で行くられた基幹道路だ。この御堂筋を彩る銀杏並木は大阪を象徴する風景となっている。大阪市の道路は、豊臣秀吉が大坂城を築城する際に構想したものが元で、碁盤の目ように配されている。しかし、人馬などが往来できる貧弱なもので、第五回内国勧業博覧会を契機に道路整備が進んだ。

大正八年（一九一九年）に大阪市長の池上四郎氏が、梅田から難波間を都市計画街路第一号線として拡幅する計画を発表。第七代大阪市長に就任した都市計画学者でもある關一氏が引継ぎ将来を見据えた都市政策を推し進め、大正一五年（一九二六年）に地下鉄御堂筋の建設と合わせ総工費三三七五万円をかけて着工した。

しかし完成までの道のりは難儀の連続であった。幅員六mの道路を約八倍に拡幅する計画のため、地権者の立退きが問題となった。そこで受益者負担金制度を考えだしたが市民の大反対に困難を極めた。粘り強く未来の大阪の発展の為に有益なことだと理解を求め続けた。また、地下の工事は軟弱な地盤の掘削により附近の家屋は傾き地下水も枯れ果てたらしい。挙句の果てに土佐堀川で締切が決壊し、道路の一部は冠水し市電が不通となった。そして幾多の困難を乗り越え昭和二十二年（一九三七年）に開通した。一〇〇年先を考え実行する。この信念こそ建築の未来があるのではないか。

計建築群(土佐材を使った大スパン建築物)他を見学し、翌日は内藤廣氏設計(土佐材を使った大スパン建築物)の牧野富太郎植物園・記念館、JR高知駅、高橋晶子氏+高橋寛氏設計の坂本龍馬記念館などを見学します。

日時 5月15日(金) 7:25新大阪駅集合  
5月16日(土) 18:20(予定)  
新大阪駅解散

※観光バスにて移動します。  
行程 5月15日(金) 新大阪→高知県梶原町→高知市

5月16日(土) 高知市→新大阪  
対象 土佐材を使ってくださる建築関係の方  
土佐材の流通拡大に携わっていただける方  
対象の方が随伴される施主

費用 会員24,000円 一般27,000円  
※費用の一部は土佐材流通促進協議会様、近畿木材住宅協会様から補助を受けています。  
定員 30名

※申込は、氏名、会員番号、性別、年齢、連絡のつく住所、電話・FAX番号、メールアドレスを記載の上FAXにて申込ください。

※実施1ヶ月前からキャンセル料が発生します。

状況に関する書類の保存状況について書面を交付して説明しなければならなくなるなど、ますます検査済証の重要性が高まっております。

完了検査は、建築物の安全性を確保するための最後の手続きです。  
完了検査の重要性を改めて認識して頂き、工事監理者又は代理者の業務を行う際には、建築主に対して完了検査の必要性を十分に説明し、適切に完了検査の申請を行うことを求めています。

■完了検査の確実な受検について  
大阪府ホームページをご覧ください。

■問合せ  
大阪府建築行政マネジメント推進協議会事務局  
(大阪府住宅まちづくり部建築指導室建築安全課)  
Tel.06-6210-9727

## パネル展「建築物等を活かした都市・地域の魅力創出に向けて」開催中～3/30

大阪市都市整備局による「地域魅力創出建築物修景事業」「生きた建築ミュージアム事業」「HOPEゾーン事業」の概要とともに、各事業で行われた修景(建築物の特徴を活かした外観改修)の事例等を紹介いたします。

主催 大阪市都市整備局  
大阪市立住まい情報センター  
日程 開催中～3月30日(月)  
開館時間 平日土曜9:00～19:00、日曜日10:00～17:00

休館日 火曜、祝日の翌日  
会場 大阪市立住まい情報センター4階  
大阪市北区天神橋6-4-20  
問合せ 大阪市立住まい情報センター  
Tel.06-6242-1160

## 第7回大阪市ハウジングデザインシンポジウム「建築のチカラ」令和のハウジングデザインを考える 3/22

建築家の岸和郎氏をお招きして、ご自身の作品やこれまでのハウジングデザイン賞の受賞物件についてお話しいただき、大阪中之島美術館の設計を担当した建築家の遠藤克彦氏と令和時代のハウジングデザインについて語っていただきます。

主催 大阪市都市整備局  
大阪市立住まい情報センター  
日時 3月22日(日) 13:30～16:00  
会場 大阪市立住まい情報センター3階ホール  
大阪市北区天神橋6-4-20

定員 100名(申込先着順)  
参加費 無料  
・プログラム  
1.表彰式  
「第33回大阪市ハウジングデザイン賞賞状贈呈」

「講評」  
「受賞住宅紹介」  
2.記念講演  
「近作について」  
岸 和郎(建築家、ケイ・アソシエイツ主宰)  
3.トークセッション  
岸 和郎(建築家、ケイ・アソシエイツ主宰)  
遠藤克彦(建築家、遠藤克彦建築研究所 代表取締役)  
コーディネーター  
高田光雄(京大名誉教授)  
問合せ 大阪市立住まい情報センター  
Tel.06-6242-1160

## 懐かしい大阪・堺の近代建築の幻燈上映会(78) 3/21

それぞれの時代を雄弁に物語る歴史建築を幻燈で見ながら建築の面白さを考えてみたいと思います。

日時 3月21日(土) 11:00～  
会場 堺市立東図書館(北野田駅前)  
申込 不要(参加自由)  
講師 柴田正己(明治建築研究会代表)  
問合せ 明治建築研究会  
Tel.090-4289-1492

## 建築レクチュアシリーズ217 4/3

大阪を拠点に活動を行う2人の建築家、芦澤竜一氏と平沼孝啓氏が1組のゲスト建築家をお呼びして、年に7回開催する建築レクチュアシリーズ。建築家としての作家的な思想をお聞きしながら、作品づくりの手法や建築へのアプローチなどを探ります。今回のゲストスピーカーは平田晃久氏です。

日時 4月3日(金) 19:00～20:30  
(開場18:00)  
ゲストスピーカー 平田晃久  
会場 グランフロント大阪北館  
4階ナレッジシアター  
大阪市北区大深町3-1  
入場料 1,000円  
定員 381名  
申込 ウェブサイトより要申込  
<https://217.aaf.ac>  
問合せ (NPO法人) アートアンドアーキテクト フェスタ  
E-mail [info@aaf.ac](mailto:info@aaf.ac)

## 講演会「建築家の翻訳カー建築と漁村空間」4/11

漁村で建築作品をてがげた建築家を招いた講演会です。漁村や地域性をどのように解釈し作品を設計しているのか。作品紹介を通して漁村の翻訳方法に迫ります、さらに建築家の観点から鳥羽漁村に向けた空間のあり方に向けた討議を行います。

日時 4月11日(土) 13:00～16:30  
講演 貝島桃代(建築家/アトリエ・ワン/筑波大学准教授)  
湯谷敏介(建築家/湯谷建築設計)  
定員 80名(要申込・先着順)  
申込受付期間 3/1～4/10  
入場料 鳥羽市立海の博物館入館料  
会場 鳥羽市立海の博物館内映像ホール  
鳥羽市浦村町大吉1731-68  
問合せ 鳥羽市立海の博物館  
Tel.0599-32-6006

## Administration

### 行政からのお知らせ

### 建築物省エネ法改正のお知らせ

「パリ協定」(2016年11月発効)を踏まえた温室効果ガス排出量の削減目標の達成等に向け、住宅・建築物の省エネルギー対策の強化が喫緊の課題となっています。このため、住宅・建築物市場を取り巻く環境を踏まえ、住宅・建築物の規模・用途ごとの特性に応じた実効性の高い総合的な対策を講じることが必要とされています。これらの背景を踏まえ、建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律の一部を改正する法律が、令和元年5月10日に国会において成立し、同年5月17日に公布されました。詳細については、国土交通省HPをご確認ください。

### 建築基準法に定める完了検査の確実な受検について

大阪府全体の完了検査実施率は、平成10年の建築基準法改正以降、約38%から大幅に向上し、現在では約95%まで改善されました。しかし、全ての建築物が完了検査を受けている状況ではなく、完了検査の本来の性格からすれば十分と言えない状況にあります。平成30年4月に宅地建物取引業法が改正され、既存建物の取引時の重要事項説明において、検査済証など建物の建築及び維持保全の

## Others

### その他のお知らせ

### PARAMETRICISM /Segmentmetric+RoboTectonic 3/16 (開催日程が変更になりました)

ザハ・ハデイド・アーキテクト代表、パトリック・シューマッハ氏を招聘しての講演会を開催します。今回の講演会では脱均質化社会をテーマに日本の単一化された産業構造を今一度考えなおし、未来の可能性を示せる場となることを目的としています。その上で、東京オリンピックの国立競技場コンペで最初に選ばれたザハ・ハデイド事務所の現トップ、パトリック・シューマッハ氏にお越しいだき日本の産業構造と西欧の産業構造の違いと本質について議論の予定です。ご予約は、問合せのメールアドレスよりご連絡ください。

主催 大阪産業大学デザイン工学部  
建築・環境デザイン学科  
日時 3月16日(月) 18:45～21:15  
※当初の日程から変更されています。  
講演者 パトリック・シューマッハ  
(建築家、ザハ・ハデイド・アーキテクト)  
山口 隆  
(建築家、TYa/TYMDL主宰)  
会場 大阪市中央公会堂  
大阪市北区中之島1-1-27  
参加費 無料(要予約)  
問合せ 大阪産業大学デザイン工学部建築・環境デザイン学科TYMDL(Takashi Yamaguchi Media Design Lab)  
e-mail: [tylab2403@gmail.com](mailto:tylab2403@gmail.com)

# Sponsorship

## 建築士会からのお知らせ

### 既存建築物耐震診断等の評価・評定

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。

不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞ活用ください。

(業務内容)  
耐震診断報告書の審査、評価  
耐震補強計画書の審査、評価等  
(対象建築物)  
公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)  
申込者又は診断等実施者が本会会員の場合、評価手数料の10%割引があります。

### 環境性能評価システム講習会

3/12 CPD3単位

CASBEE、LEED、WELL、BELS、環境に関わる様々な評価システムをその背景、特徴について学びます。評価システムについての疑問に講習会・質疑応答でお答えしますので、ぜひご参加ください。

日時 3月12日(木) 15:00～17:40  
会場 大阪府建築士会 会議室  
定員 50名(定員に達し次第締切)  
受講料 建築士会会員3,500円  
後援団体会員4,500円  
一般5,500円

### 令和2年建築士試験案内

#### ■二級・木造建築士試験

◇受験申込書の配布  
期間 3月16日(月)～4月13日(月)  
(土、日、祝日は除く。但し4/11(土)、4/12(日)は配布します。)  
時間 9:30～17:00  
場所 大阪府建築士会事務局  
◇受験申込書の受付  
期間 4月9日(木)～4月13日(月)  
(土、日も受付ます。)  
時間 10:00～17:00

場所 大阪府建築士会事務局  
◇学科試験日 二級7月5日(日)  
木造7月12日(日)  
◇設計製図試験日 二級9月13日(日)  
木造10月11日(日)  
■一級建築士試験  
◇受験申込書の配布  
期間 3月23日(月)～4月20日(月)  
(土、日、祝日は除く。但し4/18(土)、4/19(日)は配布します。)  
時間 9:30～17:00  
場所 大阪府建築士会事務局  
◇受験申込書の受付  
期間 4月16日(木)～4月20日(月)  
(土、日も受付ます。)  
時間 10:00～17:00  
場所 大阪府建築士会事務局  
◇学科試験日 7月12日(日)  
◇設計製図試験日 10月11日(日)  
※インターネット又は郵送による受験申込は、建築技術教育普及センターのホームページをご覧ください。  
http://www.jaect.or.jp/

### 令和元年度建築士定期講習

3/26、3/31 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成28年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

日程・会場・定員  
3/26(木) 大阪YMCA会館 200名  
3/31(火) 大阪府建築健保会館 90名  
時間 9:15～17:00(各講習日共)  
受講料 12,960円(消費税込。事前振込)  
申込書配布場所  
大阪府建築士会及び大阪府建築士事務所協会事務局又は、建築技術教育普及センターHPからダウンロード(平成28年度受講者には、直接申込書を郵送しています。)  
申込方法・受付場所(送付場所)  
大阪府建築士事務所協会事務局へ持参又は簡易書留による郵送。  
建築技術教育普及センターHPからWEB申込みも可能です。  
https://jaeictkosyu.jp/jaeicteikikosyu/  
注)各回定員に達し次第、受付を終了します。

### 令和2年度監理技術者講習

(監理技術者以外の方も受講可能)  
4/24、5/27、7/1、9/4 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づき法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講

が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひ受講ください。  
日程 令和2年4/24(金)、5/27(水)、7/1(水)、9/4(金)  
時間 8:55～17:00  
会場 大阪府建築士会会議室  
定員 各回30名(定員に達し次第締切)  
受講料 WEB申込み9,500円  
郵送申込み10,000円  
申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。  
http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html

### 景観まちづくり講座の受講者募集

3/14 CPD3単位

現在実施中の景観講座の締めくりとなる最終回講演会に参加できます。  
日時 3月14日(土) 13:00～16:00  
内容 古地図研究と景観まちづくり  
講師 岡 絵里子(関西大学教授)  
※講演後、講座生による成果発表もあります。定員 40名程度(先着順)  
会場 本会会議室  
受講料 会員1,000円 会員外1,200円  
(講義資料代を含む)  
申込締切 開催日の3日前まで

### 限界耐力計算による木造耐震設計レビューと改修事例の紹介

3/24 CPD3単位

日本建築構造技術者協会(JSCA)関西支部の木造住宅レビュー委員会が新たに発行した「木造住宅・建築物の耐震性能評価・耐震補強マニュアル(第7部)」より、2011年以降の耐震設計レビュー実績の分析結果から読み取れる傾向を紹介し、続いて限界耐力計算を用いた最新の耐震改修の設計施工事例集の中から長野県在住の女性建築士が手掛けられた事例を紹介し、最後に他の事例の紹介と新たに追加した設計資料の解説をします。  
日時 3月24日(火) 14:00～17:00  
会場 大阪府建築健保会館6階ホール  
定員 120名(定員に達し次第締切)  
受講料 建築士会会員3,000円  
後援団体会員4,000円  
一般5,000円

#### 建築士の会いずみ野

テーマ別セミナー「防水改修」  
3/27 CPD2単位(予定)

官民とも既存ストックの利用推進が提唱される中、近年は台風や地震等の自然災害が相次いでいます。雨水を屋内に漏らさないという、建築物として重要な基本的な性能「防水」について、講師を田島ルーフィング株式会社様にお願

いし、特に改修工事にスポットを当ててセミナーを開催したいと思います。  
日時 3月27日(金) 18:20 集合  
18:30～20:00 セミナー  
20:00～22:00 懇親会  
会場 岸和田市立浪切ホール 研修室1  
大阪府岸和田市港緑町1-1  
定員 30名(定員に達し次第締切)  
参加費 会員・会員外とも1,000円  
学生無料(※学生証提示にて)

### 体験セミナー「苔テラリウム」づくり

苔おじさんに学ぶ  
小さな苔から地球温暖化帽子?!  
4/25 CPD3単位

苔遊びの第一人者泉原一弥氏から地球温暖化防止について学びます。その後、「苔テラリウム」づくりを体験していただけます。泉原氏は、水生生物を飼育する設備は「アクアリウム」です。「アクア」は水の意味です。「アクア」のかわりに「テラ」を挿入します。「テラ」とは、大地・陸地・地球の意味です。続くと「テラリウム」となり、苔だけを使うので「苔テラリウム」になり、小さな器の中の地球ということでおっしゃっています。完成した作品は各自お持ち帰りいただけます。  
日時 4月25日(土) 14:00～16:30  
会場 大阪府建築士会 東会議室  
講師 日本苔緑化研究所 泉原一弥氏  
参加費 新入会員・学生500円  
会員1,000円 会員外1,500円  
※別途、基本材料代1,500円頂戴します。  
定員 30名(申込み先着順)

### 2020年度助成対象活動募集

～地域貢献活動資金を助成します～

建築士と地域住民等が連携して進めるまちづくりなどの地域貢献活動に対して、本会が活動費の助成などを行います。  
募集締切 3月19日(木)  
対象とする活動

原則として建築士と地域住民等で構成する団体が、地域住民等と連携して進める地域貢献活動で、営利を目的としない活動。  
助成額 1件の助成額は30万円を限度  
応募方法 所定の申請書に必要な書類を添えて申請してください。

### 「TOSAZAIツアー in 高知・梶原」

5/15～16 CPD5単位(予定)

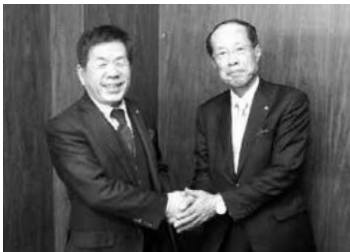
高知県では住宅用建築材に「土佐の木」を使用していただけの方を対象に、実際に森を見て確認していただく「土佐材産地セミナー・産地見学ツアー」を行っています。この度、近畿木材住宅協会の共催で高知・梶原の土佐材産地セミナー、産地見学ツアーを企画いたしました。土佐材の研修、製材や、梶原町の隈研吾氏設

## 会長動静

- 1/28 府建築士事務所協会新年交礼会
- 1/29 役員候補推薦委員会
- 1/30 国土交通省中央建築士審査会
- 1/31 東大阪市長面談  
不動産鑑定士協会賀詞交換会
- 2/ 4 能勢町長面談
- 2/10 大阪府採用委員会
- 2/12 池田市長面談  
運営委員会
- 2/13 都島第二工業高校表彰状授与
- 2/19 理事会・正副会長会議  
在阪建築4団体会長支部長会議
- 2/20 寝屋川市まち政策部長面談



(右)  
野田義和  
東大阪市長



(左)  
上森一成  
池田町長



(右)  
富田裕樹  
池田市長

## 運営部門

### 令和2年度の本会理事・監事候補者を選任

本会役員46名のうち22名が、今年5月の定時総会で任期満了のため、次期の役員候補者を選出する選考委員会を1月29日に開催しました。

委員会では、本会役員としての資質を備えるとともに、会員の声を運営に反映するために幅広い建築専門分野から選出することなどを基本に、会長及び各部門か

ら推薦を受けた20名と、1期2年の任期満了者8名、合計28名の正会員を対象に選考しました。

その結果、理事候補者23名、監事候補者1名を選出し、2月度理事会でこれらの候補者を総会に諮ることが承認されました。理事・監事候補者の詳細につきましては、「建築人」5月号に同封する定時総会議案書で会員の皆様にお知らせします。

## 運営部門

### 総合資格学院、日建学院と会員割引協定を締結

本会と総合資格学院及び日建学院は、講座割引に関する協定を締結しました。協定により、両校が開催する建築士や宅地建物取引士などの資格取得講座を本会会員が受講する場合に、本会会員証を提示することで最大3万円の割引が受けられることとなります。準会員の方も適用されますのでご利用ください。

## 建築表彰部門

### 建築関連学校優秀卒業生15名を表彰

本会では毎年、建築業界の将来を担う優秀な学生を表彰し、卒業後の励みとして一層の精進を重ねていただくため、建築関連学校の優秀卒業生を表彰しており、今年度は15名の卒業生を表彰します。

表彰は、本会役員が卒業式等に出席して対象者に直接表彰状を授与します。本年度の表彰者在籍校は、大阪大、大阪市大、大阪芸大、大阪工大、関西大、近畿大、摂南大、大阪工技専、中央工学校、修成建設専、日本理工情報専の11校15学科です。

## 建築表彰部門

### 高校生の建築甲子園に大阪の都島第二工業高等学校が入賞

(公社)日本建築士会連合会及び全国の建築士会が共催して毎年実施している「高校生の建築甲子園」は、本年度のテーマ「地域のくらし～これからの地区センター～」に、合計117点の応募を36都道府県建築士会が受け付け、それぞれの建築士会の代表に選抜された36点で競われました。

最終審査では優勝、準優勝、特別賞など8点を選出され、大阪代表の大阪市立都島第二工業高等学校の「路面電車の通る街」が、まちづくりの基本である地域社会を意識した点が評価され、「まちづくり委員長特別賞」を受賞し、2月13日に岡本会長が同校を訪れ、提案した生徒に表彰状と賞金を授与しました。

## 社会貢献部門

### 国土交通省空き家対策補助事業の事業成果を発表

昨年7月に国土交通省の空き家対策補助事業に採択された「空き家等既存住宅流通市場活性化に資するインスペクション等普及啓発事業」が、大阪の住まい活性化フォーラムの弁護士、宅建士、不動産鑑定士、瑕疵保険取扱者などとの専門家の協働によりこのほど完了しました。

2月17日には成果報告会が東京で開催され、本会インスペクション委員会の佐賀委員長と大阪府都市居住課の竹田主査、川田福主査が出席し、事業成果を発表しました。報告会には採択された60件の事業者が全国から参加し、終了後行われた意見交換会では、空き家対策に関する活発な議論が交わされました。なお、事業成果は国土交通省及び本会ホームページ等で公表します。

## 社会貢献部門

### 全国耐震ネットワーク委員会全体会議に出席

2月18日に、本会の建築物耐震評価委員会が登録している、(一財)日本建築防災協会の全国耐震ネットワーク委員会の全体会議が、全国の登録105団体から約200名の関係者が出席して、東京霞ヶ関ビルにおいて開催され、本会も出席しました。会議では、国土交通大臣官房の淡野審議官及び文部科学省森参事官から、国の耐震化の取り組み状況についての説明があり、その後、政策研究大学院大学の菅原教授から「ニュージーランド、台湾、チリにおける建築物の応急危険度判定」、東京大学の楠教授から「3層RC建物の大型振動台実験」についての特別講演がありました。

## コンクリートに発生するひび割れの原因と対策

日程：令和元年11月19日（火） 会場：大阪府建築健保会館 参加者：53名



吉野俊一（研修委員会担当理事）

建物における三大瑕疵は、タイルの浮き・剥離、漏水とひび割れといわれています。研修委員会構造・施工担当ではこれらへの対応として建築技術講習会を企画してきました。2005年以降、タイルに関する講習会を3回、防水関連4回、ひび割れについては今回を含めて4回実施しています。

コンクリートのひび割れは、これを無くすことが非常に困難でコンクリート構造物の永遠の課題ともいえます。今回の講習会では、【講義0】セメントペーストの水和反応過程 【講義1】ひび割れ問題と仕組み概要 【講義2】鉄筋コンクリート造に発生するひび割れの種類と発生の仕組み 【講義3】鉄筋コンクリート造におけるひび割れ制御対策と検査の要点という4つのテーマで講義していただきました。

【講義0】では、セメントの製造過程から水和反応までを電子顕微鏡写真を交え

での説明でした。

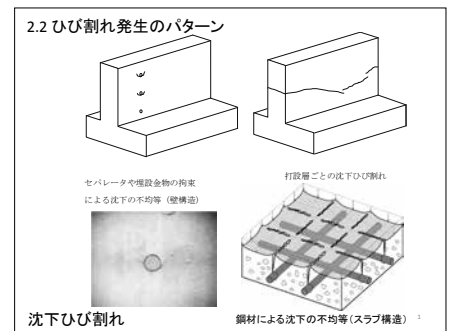
【講義1】は昭和30年代から後に発行された技術書や指針についての解説がありました。当時から構造設計から見た「キレッツ」、材料・施工からみた「キレッツ」として、鉄筋コンクリート造の問題点としてとりあげられていたことがわかりました。なかでも収縮ひび割れに着目されることが多くなったようです。

【講義2】ではひび割れの種類と発生の仕組みの説明です。ひび割れ発生の原因として、A.材料、B.施工、C.使用環境、D.構造外力、E.その他に分類しています。施工面ではコールドジョイント、ジャンカ（豆板）の発生とともに特に初期材齢時のひび割れの発生・展開を取り上げています。乾燥収縮・自己収縮のメカニズムと外部拘束及び埋設鉄筋の効果について解説は、ひび割れパターンの理解に役立つものと思われます。マスコンクリートに関わる温度ひびわれはそのメカ

ニズムの細かい説明と、耐久性観点から中性化と鉄筋の腐食に関して解説がありました。

【講義3】鉄筋コンクリート造におけるひび割れ制御対策では、施工不良による初期ひび割れ対策、竣工後の収縮ひび割れとマスコン対策及びひび割れ補修対応に及んでいます。

日頃から耳にしている内容も多かったと思いますが、新たに吸収できた新しい面もあり、実り多い講習会であったと感じました。



## 大阪府建築士会・大阪弁護士会共催「雨漏り～調査・補修・法的問題点～」

日時：令和2年2月4日（火） 18:00～20:00 会場：大阪弁護士会館 参加者：建築士56名、弁護士41名



南 勝喜（鑑定業務支援委員会委員長）

大阪府建築士会・大阪弁護士会共催セミナーも回を重ね第4回を迎える事となった。今回は建築紛争事件の中でも上位にくる「雨漏り」を取り上げ建築士と弁護士が発表する形式である。冒頭建築士会会長の挨拶から始まり、最初に「雨漏り事件に臨む弁護士・建築士が考えるポイント」と題して塚本健弁護士作成のレポートを中心に講義が為された。大きくは雨漏りの特殊性、相談時、調査時、補修時、法的構成、手続選択、事件解決時等に留意する事項をその項目ごとに整理し建築士と弁護士との協力の在り方を解り易く且つ丁寧に説明された。

続いて「雨漏り事件簿」と題して玉水新吾建築士作成の冊子を用いて雨漏りの現

状、原因、被害、何故漏れるのか（表面防水と下地防水の説明）、散水試験、実験データ、各種調査、補修方法、適切な施工補法等々について日頃から雨漏りの問題に取り組んでいる貴重な経験則を具体的に説明された内容であった。最後に「具体的な雨漏り事件における着眼点」と題し津村泰夫建築士、古野裕依子弁護士両名で実際に発生した雨漏り事件について写真を見ながら事件に迫った。バルコニーFRP防水の施工不良、コンクリート打継部分からの漏水、原因確定が困難な事例、二次防水をしなかった施工、結露等による漏水等の事例を挙げ事件ごとに弁護士の疑問に建築士が答える方法での講義が為された。

弁護士会副会長の閉会挨拶でセミナーが終了した。

余談ではあるが今回のセミナーを開催する為に鑑定支援業務委員会と弁護士会住宅紛争処理委員会所属弁護士とが8回に渡り委員会を開催し協議を重ねた結果、今回の充実したセミナーとなった事を報告させて頂く。



建築人

# 徳岡昌克



建築そのものではなく、建築に関わる人に焦点をあて掲載する「建築人（けんちくびと）」。人の持つ魅力は、職域を超えても理解しあえると考えます。創作の源泉や姿勢、人生哲学、ライフスタイルなどを垣間見ることで、共感できる気づきを得ることを期待しています。

第十四回目の建築人は、昨年六月に逝去されました建築家・徳岡昌克さんに焦点をあてます。竹中工務店の棟梁をされていた父親の影響で建築を志し、日本の風土や地域に馴染む優れた文化施設、公共施設を多く遺されました。今回は以前から親交のあった建築ジャーナリスト・淵上正幸氏よりご寄稿いただきました。またご子息である建築家・徳岡浩二氏より代表する作品の一部をご紹介します。

とくおかまさかつ

1930年 横浜生まれ

1951年 京都工業専門学校(現・京都市芸繊維大学)建築科卒業

竹中工務店大阪本社設計部入社

1965年 同社休職

ムーバ建築事務所(ワシントンDC) C.F.マーフィー建築事務所(シカゴ)

1967年 竹中工務店大阪本店設計部復職

その後同社大阪本店設計部設計課長、副部長、九州支店設計部長、

大阪本店設計部副部長を歴任

1983年 徳岡昌克建築設計事務所創設

1988年 株式会社徳岡昌克建築設計事務所設立

2011年 株式会社徳岡設計代表取締役会長

2019年 六月二十六日逝去

主な受賞

公共建築賞 第25回建設大臣賞、BCS

賞、JIA25年賞、第8回ブルガリア世界

建築トリエンナーレ入賞ウィーン市長賞、

1999デューボン・ベネディクタスアワード

特別賞、公共建築百選、日本建築士会

連合会賞、医療福祉建築賞、大阪建築コ

ンクール、hiroba作品賞等多数

kenchiku-bito



# 「徳岡昌克さんを偲ぶ」

淵上正幸

愛知県内の「稲沢市荻須記念美術館」の正面アプローチに立つと、端正なファサードに向けての直線的なパースペクティブに、両サイドからの緑がバランスよく顔をだし、エントランス周りの風格ある雰囲気により高まり、襟を正して入館せざるを得ないような気分になってくる。それは今を去る四〇年ほど前の遙かな記憶で、僕が初めて徳岡昌克さんにお会いしたのは、この格調ある荻須高徳画伯の記念館であった。

当時僕は雑誌『新建築』の編集部員で、徳岡さんのこの作品を担当した記憶がある。何分にもかなり前のことなので、記憶は定かではない。これは徳岡さんがまだ竹中工務店に在職されていた時の、応募作品が四四一件もあった公開コンペに勝利したものである。この建物はBCS賞を受賞しており、『新建築』の一九八三年一〇月号に発表された。徳岡さんはちょうどこの年に竹中工務店を辞職され、徳岡昌克建築設計事務所を創設された。

その後僕は一九八九年八月いっぱい

新建築社から独立して編集事務所を設立し、個人的には建築ジャーナリストとして活動するようになった。僕の事務所は一九九〇年代に入って『コンペ&コンテスト』（TOTTO出版）の編集を任せられ、また書籍の編集もし、個人的には連載執筆やインタビュ、海外建築ツアーなどを始めて忙しくなってきた。やがていつ頃だったか忘れたが、徳岡さんから連絡があり、相談したいことがあるというので、初めて尼崎の事務所に向った。

徳岡さんは竹中工務店在職当時から設計コンペに強く、その実力は竹中工務店から独立してからは更なる強さを発揮して、関西エリアでは飛ぶ鳥を落とす勢い。それらは規模が大きい美術館や博物館といった公共建築が多く、かなり多忙であったことが想像された。そして事務所の作品もたまりだしてきた。僕が呼ばれたのはそうした時期であった。

僕は徳岡さんの八面六臂の活動から、徳岡事務所は新しい先端的なデザインのものかなという勝手な想像をもって伺うと、思いのほか控え目な事務所で派手な人目につきやすいような事務所ではなかった。一九三〇年生まれで徳岡さんは当時六五、六歳ではなかったか。例の温

厚なにごやかな笑い顔で迎えてくれた。その時伺ったのは、自分の作品がたまってきたので作品集を出したいということであった。ただ単なる作品集ではなく、自分の回顧録的なものも含んだ一冊にしたいということであった。その時は徳岡さんの履歴や活動歴のアウトラインを伺ったりしたが、その内容の広さ・深さに驚き、これは大変な中身の本になると感じた。

実際に編集作業が始まると、まずどのような形式の本にするかが問題だった。普通だと誰かが資料を見ながら徳岡さんについての記事を書く。あるいは誰かが徳岡さんにインタビュをするということになる。ところが徳岡さんの提案がユニークだった。徳岡さんは誰かにインタビュされると、硬くなってうまく言えないので、親子対談にしようということ。徳岡さんには三人の子供があり、上の二人が男の子で一番下が女の子。長男の聡一さんは徳岡工務店の代表だし、次男の浩二さんは徳岡設計事務所の副所長。下の郁子さんは山村流の舞踏家であり、皆さん要職についている。徳岡さんは自分の過去における成功談、失敗談などを交えた対談で、子供たちへ自分の人生訓

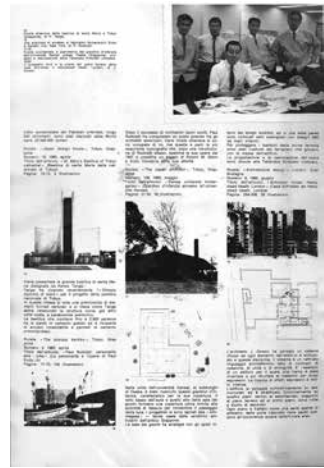
を、さりげなく伝えたかったのだろうと思っただ。

さてその親子対談だが、僕は徳岡事務所の会議室のようなところでやるものと思っていたら、徳岡さんは自分の別荘でやろうという。「湖西荘」という琵琶湖の西岸にあるウィークエンド・ハウスに泊まり掛けで来て欲しいといわれた。そこでみんなで食事をして楽しくやろうというの、徳岡さんの意図であった。テニスコートもあると言われては行かざるを得ないというよりは、喜び勇んで行きます、ということになった。

「湖西荘」は楽しかった！琵琶湖の景色は素晴らしいし、植物好きの徳岡さんの趣味である果実栽培の果樹園も近くにあった。曰く、びわ、栗、柿、りんご、ぶどう、キウイ、桃、梨。徳岡さんは樹木については非常に詳しく、いろいろ案内して説明してくれたが、樹木の名前は覚えられない。「湖西荘」の敷地にも樹木が多かったが、大きなケヤキがあったような気がする。テニスには浩二さんとやった記憶がある。徳岡さんはここに竹中時代の仲間を大勢呼んでパーティをかなりやって親睦を深めていたらしい。



上段：稲沢市荻須記念美術館  
(撮影：村井 修)  
中段：『建築一生き様のデザイン』  
(著者：徳岡昌克、編集：株シネクティックス、1998年)  
下段：湖西荘でのパーベキュー  
左より浩二氏、ホセ・ルイマ氏、アントニオ・ビジェガス氏、昌克氏、椎名英三氏



メインの親子対談は休息を入れつつ長時間に渡ったが、徳岡さんは少年時代から↓大学↓竹中時代↓アメリカ時代↓竹中時代↓徳岡事務所時代と、記憶がすぐ

くて次から次へといろいろな話が出てきた。これが余にも多いので僕もびっくりにしたと同時に、本にした時これらの話に出てきた建築や人物などのカット写真はどうするのかと、先走った考えが脳裏をよぎった。後日この件で話した時に、徳岡さんは任せてください大丈夫ですと太鼓判。実際にほとんどの写真やスケッチなどがしっかり出てきて、内心ル・コルビュジエのような人だと思った。

「湖西荘」の思い出は、僕の仕事体験の中では飛び抜けた楽しい印象を残してくれたものだった。徳岡さんからは家族同様の扱いをしていただき、僕は仕事で伺ったにも関わらず伸び伸びとして親子対談や飲食、そして散歩などを楽しんでしまった。徳岡さんは人を楽しませる術に長けていると、「湖西荘」での滞在でわかった。ここでの一泊二日の仕事のやり方は、出版を頼んだ人と、それを引き受けた人が、単にクライアントと編集者という関係を越えて友人的関係になり、それをベースにして組み上がった仕事になったことで、実務的には大変な内容を

もつ書籍ながら、その後の進行がスムーズになったことは歪めない。

徳岡さんが名付けた『生き様のデザイン』は、メインの「親子対談」の前に三つの論文を書かれている。「建築とは何か」「私が建築創りに考えること」「都市の景観——みどり・道・広場」の三編は、徳岡さんの建築設計のベースを構成する理念が書かれている。「親子対談」の後には代表的な二六作品が掲載されている。公共建築が多く、いかにコンペに強いかが目瞭然である。それはその建物のニーズに答えると同時に、地域のアーバン・コンテクストにフィットした作品であるからであろう。

徳岡さんの話で特に僕が面白かったのは、アメリカ時代の話だ。就職のためミノル・ヤマサキの事務所を振り出しに、いろいろな事務所の訪問履歴が面白かった。ヤマサキ事務所の後シカゴに行き、ミリス・ファン・デル・ローエ事務所、SOM、C.F. マーフィーなどの著名事務所の訪問履歴をしたようだ。ミリスは高齢で週に一〜二回しか事務所に来ないから止めたとか。SOMは見せたポर्टフォリオの徳岡作品が気に入られなかったからとか。結局C.F. マーフィー事務



所に落ち着いたが、そこにミリスの高弟でニューヨークの「シーグラム・ビル」を担当したジョン・サマーズがいた。そこに学生のヘルムート・ヤーンがバイトに来ていたとか。僕はこれらの事務所のうち、ミリス事務所以外とは全てコンタクトをして資料を借りて『アメリカ建築案内二』に出したことがある。そういう訳で出版後でも、徳岡さんとアメリカ時代の話をすると、話がはずんで長くなった記憶がある。

徳岡さんとの付き合いは、書籍の出版だけではなかった。その後もよく電話をいただいた。最初は本の売れ行きとか、本に関する話が多かったが、だんだん今どんな建築を設計しているとか、『新建築』に面白い建築が出ているとか。そうした友達的な関係が続きました。徳岡さんのそうしたワイドな付き合い方は「親子対談」にも登場した息子さんである聡一さんや浩二さんにも引き継がれている気がする。

聡一さんは僕の「ロンドン・オリンピック&ケンブリッジ建築探検ツアー」に息子さんをつれて参加され、その後の東京での同窓会には、わざわざ大阪から参加していただいた。大阪では浩二さんの企

上段：アメリカへ行くためのポर्टフォリオの1つ  
イタリアの「CASABELLA」誌に掲載された関西大学幼稚園  
中段：第6回大阪国際見本市  
下段：ミノルヤマサキからの手紙  
  
執筆者プロフィール  
淵上正幸  
建築ジャーナリスト  
（株）シネクティックス主宰  
東京外国語大学フランス語学科卒業  
2018年日本建築学会文化賞受賞

画で僕のはじめての公開講演会「ヨーロッパ現代建築を解く」（主催：大阪府建築士会／企画：国際委員会）を開催させていただいた。そのような付き合いは、徳岡さんが遺してくれた貴重な財産である。僕は自費出版の本を編集しただけで、かくも親しく長く続くお付き合いをさせていただいているのは、非常にありがたいと珍しいと思っている。今でもご両名とはメールのやり取りは続いている。

懐かしい徳岡さんへの思慕と、楽しかった「湖西荘」への憧憬の念が、今僕の心を揺るがしている。いつの日か「湖西荘」の庭を散歩し、そこでにこやかな徳岡昌克さんに会いたいと思っている。

## 徳岡昌克と建築作品

建築家・徳岡昌克氏の長年にわたる設計活動において転機となった作品について、ご子息の建築家・徳岡浩二氏に紹介いただいた。

### ■関西大学幼稚園（一九六四年）

竹中在籍時、父が設計を生涯やっていく契機になった作品です。屋根が特徴的な建物で親鳥がひな鳥（園児）を翼を広げて優しく抱いているような形をイメージしています。当時、新建築の編集長をされていた馬場璋造さんがこの建物の前を通りかかり、村野藤吾さんの設計だと勘違いされたということです。それをきっかけに馬場さんと父が出会い、新建築にも掲載されました。

この作品の翌年、竹中を休職してワシントン、シカゴの設計事務所へ働くことになりました。青春時代に戦争で負け、日本を負かすほどの技術をもったアメリカで学んでみたいという願望があったようです。一方で、文化的な面では日本は負けていないという自負を持っていたようです。向こうの技術を使い、日本の文

化をさらに発展させたいという思いが芽生えたのではないのでしょうか。

### ■沖縄市民会館（一九八〇年）

一九七七年、竹中の九州支店の設計部長で赴任した時は、九州支店の営業成績が厳しい状況でした。その中でコンペで活路を見出したのがこの作品です。当時、竹中では文化ホールに力をいれていました。非常によくできているという点で、その後の沖縄の文化ホールはこの建物を原型にして計画されました。

### ■稲沢市荻須記念美術館（一九八三年）

こちらも竹中在籍時にコンペで勝ち取った作品です。日本のコンペの中でも歴史に残る激戦のコンペでした。沖縄もそうでしたが、施工は竹中ではありません。小さな美術館なので仕事としては採算が合わなくても、設計で取った仕事は設計でやるというのが竹中のスタンスでした。新聞に竹中工務店の名前が出て十分宣伝効果があるからということ。当時の社長が励ましてくれたということです。

### ■ぼんちあられ神戸工場（一九八四年）

この工場が独立後の初めての作品にな

ります。竹中を退職したその日に設計の依頼をされたということです。汚れにくく、掃除もしやすいということで、内外共にインバンド仕上げとしています。ぼんち揚げが日本のお菓子ということもあり、現代の材料を使って日本の郷愁や日本の色を表現しました。事務所が軌道に乗るきっかけとなった作品です。

### ■志賀町民センター（一九八八年）

この建物は現在の天津市にあり、出身が滋賀県ということもあってとても思い入れが強く、山並みと調和するような建物の在り方を追求しています。また、一九九五年に竣工した、木戸デイサービスセンターも志賀町（現天津市）にありますが、まちなみに馴染むように建物を三つに割って、色斑のある屋根瓦を特注しました。庭の池と浴場の水面の高さを合わせ、琵琶湖で泳いだ原風景を思い出してもらえようとしています。

### ■田川市文化エリア（一九九一年）

こちらは田川市という炭鉱で有名な街の美術館です。炭鉱が廃鉱になって地域産業が衰退している中で、文化で地域を元気にしたいという市の要望でした。美

術館を作り、既存の図書館を増改築して、全体の景観として馴染ませながらカフェを作り、憩いの場所として回遊できるような環境づくりをしています。みんなが集まって文化的なことができる場所という意味で、「田川市文化エリア」と名付けられています。

### ■小磯記念美術館（一九九二年）

小磯良平さんの美術館です。ここは都市公園であるため建蔽率は五%以内という条件で、公園の地下には約四三五台分の駐車場があります。中庭のアトリエは、お住まいになっていた場所からアトリエ部分だけを切り取らせていただき、移築しました。瓦も一枚ずつ外し、積み直しました。

### ■嘉麻市碓井琴平文化館（一九九六年）

碓井町の織田廣喜さんの美術館が核となっており、郷土館、平和祈念館、図書館からなる複合文化施設です。もともとは炭鉱で掘った土を盛っていたポタ山で、荒地のような場所に文化施設を建てるというプロジェクトでした。織田廣喜さんと直接打合せをしながらプロジェクトを進行しました。日本の模様、色、



上より  
沖縄市民会館  
(撮影：新建築写真部)  
ぼんちあられ神戸工場  
(撮影：村井 修)  
志賀町民センター  
(撮影：村井 修)  
木戸デイサービスセンター  
(撮影：SS 大阪)  
田川文化エリア  
(撮影：村井 修)



上より  
 小磯記念美術館  
 (撮影：村井 修)  
 インタビュー風景：  
 後方左が徳岡浩二氏  
 右は藤城義文氏  
 聞き手：飯田英二、河合哲夫、  
 河野 学、北 聖志  
 編集：梅田武宏、武藤優哉

材料を意匠に使用したいという意向がありました。そこで外壁は地域で採れる材料である漆喰塗りとし、さらに漆喰塗りの壁が割れるのを防止するため、ステンレス製の目地棒を用いて青海波模様をデザインしています。展示する作品の中に大作があったため、それに合わせて部屋を作るという手法も使われました。

■めくばーる三輪（一九九七年）

コンペの要項では一棟の建物を建てるというものでしたが、大きなボリュームはこの街には合わないと考えたため、分棟形式を提案しました。公共施設整備が遅れていたため、生涯学習施設、図書館、劇場、保健センター、老人福祉センターを一挙に建設するプロジェクトでした。駐車場は全て外側に配され、内側は昔ながらの広場を回復させると共に、いろいろな方向へ抜ける道をつくっています。地方において施設へアクセスは車が多く、目的に対して行って帰るだけになってしまいがちですが、この場所には滞留してもらって回遊性を出すという考えを考えています。ビジネスや買い物に行く以外でみんなが顔を合わせる場所が集落でなくなってしまうからです、この場所

に行けば誰かに会えるという、みんなが安心して集まれる場所を作りました。

■風土に馴染む建築

父は独立してから、日本の誇り、地域の誇りとなるような建物をつくることに生涯をささげました。風土に馴染む建築をつくるため、フラットルーフが主流の時代に、一貫して勾配屋根を用い、地域特有の材料を使ってきました。「風土とデザイン」を出版した際には航空写真で、上空からも風景との調和を確認しました。派手さはなくても、長持ちするものをつくりたいということを取り組んできました。その根底には戦争でものが無い時代に苦労した経験、勿体ないという精神があると思います。ものや材料だけでなく、職人さんの人生や努力なども大切な財産だと考えていました。建築は地域に愛され、大事にしなければならぬと長持ちしません。そういう意味で、長く地域の環境に貢献している建築を評価するJIA 25年賞をいただけてきたことを喜んでいました。建築が目立つのではなく、人とか営みの背景になるような建築をつくる。その姿勢は父亡き後も現在の事務所に引き継がれています。



撮影：村井 修



撮影：村井 修

めくばーる三輪  
小石原伝統産業会館



撮影：岡本公二

# 抄録 わが建築の半生を省みる（親子対談）

『建築—生き様のデザイン』（一九九八年発行）

徳岡昌克—構成・石堂 威

初めて、建築家・徳岡昌克ということ  
で作品集をつくらうと思った。誰かにコ  
メント、対談をと思ったが、構えるとう  
まく言えないので親子対談にしたらと思  
いついた。まず僕が一気に語って、次元  
が合うところから対談を始めたらどうだ  
ろう。

僕は一九三〇年四月横浜生まれ。父が  
竹中工務店の仕事をしていて、関東大震  
災で横浜へ行ったから、それで横浜で生  
まれた。父の故郷は滋賀県だから、東京  
のほうで名義人とかいろんな形で残るよ  
うにとだいたい進められたけれど、親もみ  
んなこちら（関西）に住んでいるからと  
いって帰ってきたというわけで、それは  
私が三歳の時であった。

◇  
中学受験は大阪で受けただけどうまく  
いなくて、中学三年の時に敗戦になっ  
た。中学三年ぐらいの時に今の郷里に疎  
開のこともあって転校してきて、江若鉄  
道の一番奥の今津中学というのに入っ  
た。これがまた年頃からしてショッキン  
グだったのは、この時敗戦になったこと  
だ。玉音放送も聞いた。動員されて、干  
拓で琵琶湖の内湖を干し上げて水田にす  
るといふ仕事を軍隊と一緒にやってい  
た。どうも負けたらしいということ、  
みんな松林のところが集まってその玉音  
放送を聞いたが、当時のラジオのことだ

から雑音が入ってほとんどわからない。  
今、天皇陛下のお話があったが、総括す  
るとどうも負けたらしい。

◇  
田舎の中学校だったけど比較的恵まれ  
ていたのは、戦時中の疎開等で優秀な先  
生がきていたんじゃないかということ。  
その中で高木大幹さんという先生がきて  
いた。その先生は非常に英語がうまくて、  
King's Englishをしゃべった。僕はその  
先生に可愛がってもらっていた。英語の  
力がついたのはその先生のおかげだ。

◇  
大学の時も何度か失敗して、父に迷惑  
をかけた。敗戦直後のこととて、食べる  
ものがない不自由な時代を、父は大阪に  
単身で働いていて、祖父も母や姉も田畑  
仕事に精を出して私たちを養ってくれた。  
昌克は勉強だけしておればよいと、父は  
不自由な生活の中で帰って来るときはい  
つも藁半紙の参考書を持って帰ってきて  
くれ、また母や姉のおかげで、田畑にも  
ほとんど出たことがなかった。四年生の  
時に旧制高校を受けて失敗して五年生で  
三高を受けて失敗して、後期に受けた京  
都工業専門学校に入って勉強することに  
なるけれども、でも建築をやるという決  
意は実は自分のものではなくて、父の願  
望であった。兄が亡くなって、父が建設  
業をやっているわけだから、父は京都工  
業専門学校に入れて建築の勉強をさせた

かった。その理由は、当時、父が東京へ  
行ったとき、蔵前高専、今でいう東京工  
業大学になるのか、そこを出られた大内  
二男さんという竹中工務店の偉い人がい  
て、この方がとても立派な人だったと感  
心していた。やっぱり倅にはぜひ高等教  
育を受けさせたいというのが父の願望  
で、建築をやらせたかったようだ。母は  
ひとり息子だから医者にしたかった。学  
校の先生には「徳岡君は実に品行方正、  
学術優等、英語もできるし、人の面倒見  
もよいから学校の先生になったらどうや  
」と言われたが、結局父の意見を聞いて建  
築を選んだ。学校へ入ってからは建築を  
選んで良かったと思うようになった。

◇  
それで京工専時代は白石博三先生と福  
田朝生先生にずいぶんお世話になった。  
人は成長するまでにたくさんの人にお世  
話になっているということとこのくどく  
ど話をしている。何でも無いような言葉  
が非常に自分を捉えて、自己啓発のバッ  
クボーンになっているから、まあこうい  
う話になるんだけれども。白石先生は非  
常に論客だった。まあ竹中に入ってから  
のことだけでも、当時関西の論客といわ  
れたのは、まず倉敷の浦辺鎮太郎さん、  
それと竹中の小川正さん、それに工織（当  
時は京都工業専門学校）の白石先生だっ  
たとか。白石先生には、こういつたら申  
し訳ないけど、僕はかなり饒舌になって、

理屈をいうようになった。非常に早口  
になって、ひと頃はもう人を説得しようと  
思うと、次々と言葉が出てきて相手をね  
じ伏せようとするとする悪い習慣になったのは  
白石先生のおかげかなと。

◇  
さて二年生ぐらいの時に、模写の対象  
になる建築を選んで先生に報告して、そ  
れから下図を描いて着色するという作業  
があった。自分は一生懸命選んで、大手  
ゼネコンのつくった建物を模写しようと  
思ったら、「いいけどこれはあまり良い  
建築ではないよ」と。良い建築か、そう  
でない建築かということを初めて教えて  
くれたのは白石先生だった。何も言わな  
いで、これはあまり良い建築でないよと  
言われたんでショッキクを受けて、ぼくは  
図書館にこもって一生懸命に外国の雑誌  
を見て、やっと見つけのがオランダの  
デュドックの作品だった。デュドックの  
作品を持って行ったら先生が「ああ徳  
岡君これはいい  
よ、これをやり  
たまえ」と言わ  
れた。「これやっ  
たらパスにし  
てよろしい」と  
いわれた、自分  
は少し道がつい  
たかなというの  
で、大変感謝を



デュドックのヒルヴェルスム市庁舎



第5回大阪国際見本市（1962年）



関西大学幼稚園（1964年） 撮影：多比良敏雄



アメリカ出発に際して竹中の人たちと（1965年9月）  
中央が徳岡氏、左隣が岩本博行氏、右隣が出江寛氏、  
永田氏、西村氏、宗田氏の顔も見られる

している。自分の目でものを選びせるように先生が自分を教育してくれたことは大変ありがたい。

学校は幸い恩賜の万年筆をもらってトップで卒業した。就職について特に情報があったわけではなく、父の進めるまま竹中の入社試験を受ける機会を得た。父は竹中の下請けだったからずいぶん頼んでくれたらしい。幸いとても良い成績で入ったとか。

スタートダッシュ…編集者の目にとまる  
三〇歳の時にアメリカへ行きたいと思った。しかしなかなかスポンサーが見つからなくて五年かかった。この五年間で何が大事かという自分というものはないものをつくれるかをアピールする必要があった。「日本鋼管鉄鋼倉庫」とか「大阪見本市」とか「藤沢薬品工業中央研究所」とか、作品をアピールする必要があった。いろんな設計を精力的に

やった。夜帰ってから一生懸命タイプを打った。アメリカに行く前に初めて『新建築』の編集長であった馬場璋造さんから竹中に電話がかかってきたらしい。「関西大学幼稚園」は誰の作品か？と。関西大前のキャンパスに近いところにあったので村野藤吾の事務所かと推測したが違っていたので問い合わせたようだった。竹中工務店とわかり、その担当者はということ、徳岡昌克につながった。これももともと雑誌『新建築』に発表され、英文版にも掲載された。これが運命の扉を大きく開くことになった。

湖西荘（研修所）の話  
琵琶湖の近くで清水があつて、山のよく見えるところが欲しくてあちこちを探し回った。竹中で日頃若い人たちにズケズケと指導するから、罪滅ぼしの意味や。みんなに感謝を表したいと思ひ、昭和四七〜四八年頃から九州に行く五二年頃まで、また帰ってからの昭和五六〜五八年頃、

自分の事務所を持ってしばらくの間、毎年竹中の若い人が中心で大勢来てくれた。

それとは別のグループで出江寛さん、太田隆信さん、狩野忠正さん、小角亨さんなど、それに西村征一郎さん、ヘキサの中筋修さん、永田祐三さん、取締役にあった宗田奎二さん、考えてみたらみんな一流の人やな。とりわけ家族ぐるみでお付き合いをいただいで子供たちの建築教育についてお世話になった。柏木浩一さんや、和歌山大学の本多友常さん、それから今年大阪建築コンクール入選の苦名正さんも常連やったな。とにかくおもしろいやないか。僕が竹中の課長をしている時の徳岡課には、強者が多かった。

突然、永田さんが竹中を辞めると言った。花房さんが部長だから僕には直接言わへん。僕は九州に行っていたし、出江さんも九州に行つてるときに辞めてしまった。だけど永田さんも出江さんも中

筋さんも西村さんも全部いたとき、岩本博行さんがいつも言っていた。「お前は、きちがい部落の牢名主で、ややこしいのばかりおつても、よううまいこと乗ってるな」と言つて。だつてそんな人間しか徳岡課にはこない。みんな座布団一枚ずつ持って来よるから、だんだん座布団が高くなるが、座布団一枚外されたら崩れるもんな。ぼくは三八歳から直接お客さんに会つたことがない。もう課長やも。座布団の上に乗つとつた。それでさう言い回つていたけど危ないやな、よっぽど僕は向こう見ずの横着もんやつたんやな。みんな偉い人やんか。そんな人の座布団に乗つていたら、そりや何とかの牢名主やで。でも難しいお客さんに当たつて、自分自身で二、三日徹夜、夜業でスケッチをつくつたこともある。でも大体は「In always available」いつでも僕を利用してくださいと、部長にも言つておつた。人間でも仕事でも断つたことがな。[In always open. In just for you.]と言つた。あんたのためにいるから何でも言つてくれやと。そしたら仕事がどんどん増えるし、仕事が増えたら人手のこともほつとかへん。どんどんややこしいことを言つてくるし、ややこしいやつはみんな能力があるやん。したら仕事出来るのは当たり前や。柏木さんとか本多さんというのは、第四部門の副部長をしている時の部下や。（後略）

石堂 威

- 一九四二年 台湾・台北市生まれ。
- 一九六四年 早稲田大学理工学部建築学科卒業。
- 同、新建築社入社。
- 一九八〇年 『新建築』編集長（一九九二）兼任
- 『住宅特集』副編集長（一九八五〜一九八八）
- GAJAPAN 創刊編集長（一九八五）
- 一九九六年 都市建築編集研究所設立。
- 二〇〇八年 徳岡昌克作品集制作『建築平風土とデザイン』（建築資料研究社発行）

1983 ~ 1990	1991 ~ 2000	2001 ~ 2010	2011 ~ 2019
-------------	-------------	-------------	-------------

徳岡昌克建築設計事務所創設	株式会社徳岡昌克建築設計事務所設立	株式会社徳岡設計
---------------	-------------------	----------

83 徳岡昌克建築設計事務所 創設  
 83・84 商業施設団体連合会 講師  
 86 日本建築協会全国工高デザインコンクール 審査委員長  
 87~90 大阪府建築士会 常任理事  
 88 株式会社徳岡昌克建築設計事務所設立  
 90~92 日本建築士会連合会賞 審査員  
 90~92 日本建築家協会 (JIA) 近畿支部幹事

91 志賀町教育研究大会 講師  
 91~93 日本インテリアファブリックスコンテスト審査員  
 92~95 大阪府建築士会 常任理事  
 92~96 滋賀建設大臣指定講習会講師  
 93~98 公共建築協会 会員  
 94~96 公共建築設計懇談会設計委託条件検討部会 委員  
 96 日本医療福祉建築協会 広報検討部会  
 96~98 大阪府建築士会 監事  
 96~99 民間建築設計監理業務標準委託契約約款検討委員会 委員  
 96~99 日本建築士会連合会契約約款等特別委員会 委員  
 98 「建築-生き様のデザイン」 刊行

03 「建築-ゆずり葉のデザイン」 刊行  
 08 「建築-風土とデザイン」 刊行



11 株式会社徳岡設計に社名変更  
 13 「樺一傘寿の日記と妻からの便り」 刊行  
 16 建築家/徳岡昌克展 嘉麻市立織田廣喜美術館で開催  
 19 大阪事務所・兵庫事務所を大阪市中央区本町橋に統合移転  
 19 6月26日逝去

83 稲沢市荻須記念美術館  
 84 ぼんち (株) 神戸工場  
 85 稲沢市保健センター  
 87 大阪府環屋川水系改修工箇所  
 87 オリックス高槻寮  
 88 志賀町民センター  
 89 大阪府吹田保健所・子ども家庭センター  
 89 能舞台のある家  
 89 新旭町水鳥観察センター  
 90 大阪天王寺動物園正面ゲート他5件  
 90 エミール・ガレのあるゲストハウス

91 田川市文化エリア  
 91 近鉄ハーツ/HUNTING (近商ストア玉川店) /ノノミヤ東大阪店  
 92 志賀町立図書館  
 92 鞍山市 (中国)・尼崎市友好十周年記念モニュメント  
 92 大阪府営高槻城東住宅  
 93 高槻市立総合保健福祉センター  
 93 神戸市立小磯記念美術館  
 93 新旭町役場新庁舎  
 94 大阪市立高等学校セミナーハウス  
 94 ピラデスト今津  
 95 モンセーヌ西神南  
 95 志賀町デイサービスセンター・志賀町ふれあいセンター  
 95 大阪府立今宮高等学校  
 95 国立曾爾少年自然の家生活文化体験棟  
 96 豊中市立伝統芸能館・豊中市石塚会館  
 96 稲沢市荻須記念美術館アトリエ復元  
 96 福岡県身体障害者授産指導所  
 96 碓井町立碓井琴平文化館  
 96 国立若狭湾少年自然の家屋内多目的活動施設  
 96 阪南パラドーム・大阪市教職員互助組合厚生施設  
 96 福岡県中央児童相談所・障害者総合更生相談所・精神保健センター  
 97 定期借地権方式・特定優良賃貸住宅 いらか  
 97 能登川町総合文化情報センター  
 97 尼崎市宮崎北団地  
 97 湖西広域南部消防署  
 98 大阪府立吹田養護学校  
 98 小石原焼伝統産業会館  
 98 大阪市立港中学校  
 98 三輪町複合施設  
 99 愛東町健康福祉ゾーン、愛東町防災センター  
 99 志賀町役場新庁舎  
 00 茨田大宮分譲住宅  
 00 今津町歴史文化情報センター (新今津町図書館)  
 00 大阪府高槻府民プラザ新庁舎建替え  
 00 医療法人 社団 宗正会 グループホーム  
 00 竹原マンション  
 00 滋賀文化短期大学図書館  
 00 東福岡病院増改修

01 大阪府高槻保健所  
 01 (甘木市) 仮称総合福祉施設  
 02 (福岡県) 第5学区総合学科高校 (粕屋高校)  
 02 宝珠山村保健福祉センター  
 02 甲南町立図書交流館「ふるる」  
 02 兵神装備株式会社滋賀研究所  
 03 エコパレット滋賀  
 03 比叡山延暦寺大霊園 礼拝堂・庫裏、鐘楼移設  
 03 夜久野町文化・保健福祉複合施設  
 04 高島市立静里なのはな園  
 05 筑豊高校大規模改築・改造  
 05 神戸市立駒ヶ林小学校  
 05 筑豊高校大規模改築・改造  
 06 兵神装備株式会社 滋賀工場における東工場増築  
 06 富士生涯学習センター (仮称)  
 06 玉川学園幼稚園園舎増築  
 06 甲賀市あいこうが市民ホール整備  
 07 九州大学 (伊都) 学生寄宿舎II  
 07 沖縄県警察学校射撃場  
 07 おおい町里山文化交流センター  
 08 九州大学 (伊都) 総合学習プラザ  
 08 玉川学園保育園

11 うみんぴあ大飯賑わい創出施設  
 11 九州大学 (伊都) 外国人研究者等宿泊施設  
 11 かもしか荘  
 12 警視庁東大和災害活動教養総合訓練施設  
 13 朝倉市秋月博物館  
 13 筑前町総合支所検討委員会 アドバイザー業務  
 13 伊丹市立荻野保育所  
 13 農業研究開発センター新築工事  
 14 稲沢市荻須記念美術館増築ほか  
 14 兵神装備株式会社ビジターセンター  
 15 有田市市民会館 (紀文ホール・図書館)  
 16 太子町南総合センター  
 16 越前市今立総合支所  
 16 あすなる木守の郷新築移転  
 17 玉川学園高野公園保育園  
 17 大阪府福祉関連情報発信・コミュニケーション支援拠点 (仮称)  
 18 千早赤阪村新庁舎  
 18 新智頭図書館



稲沢市荻須記念美術館



夜久野ふれあいプラザ



かもしか荘



おおい町里山文化交流センター



兵神装備株式会社

93 第21回日本建築士会連合会会員作品展優秀賞: ぼんち (株) 神戸工場  
 93 第21回日本建築士会連合会会員作品展優秀賞: ぼんち (株) 神戸工場  
 94 第18回 hiroba 賞入賞: 神戸市立小磯記念美術館  
 95 第27回中部建築賞入選: 志賀町デイサービスセンター・志賀町ふれあいセンター  
 96 第28回中部建築賞入選: 家族旅行村ピラデスト今津  
 96 第4回愛知まちなみ建築賞入賞: 稲沢市荻須記念美術館アトリエ復元  
 97 第9回福岡県建築住宅文化賞大賞: 碓井町立碓井琴平文化館

97 第8回ブルガリア世界建築トリエンナーレ入賞 (ウィーン市長賞): 碓井町立碓井琴平文化館  
 97 第29回中部建築賞入選: 新旭町役場新庁舎  
 98 医療福祉建築賞 1997: 志賀町デイサービスセンター・志賀町ふれあいセンター  
 第40回 SDA 賞入選: 兵神装備株式会社 (滋賀県伊香郡)  
 第19回日経ニューオフィス賞 (近畿ブロック) 近畿ニューオフィス特別賞「空間賞」日本経済新聞社: 兵神装備株式会社 (滋賀県伊香郡)  
 00 第24回 hiroba 作品賞: めくばー三輪

07 第19回全国フロント施工例コンテスト 入賞 トステム株式会社: 白庭台駅北側店舗施設 (SOLTE 白庭台) (奈良県生駒市)  
 07 電化厨房フォーラム 快適厨房コンテスト 2007 特別賞 (協賛: 東京電力株式会社): 小田原福祉会潤生園れんげの里 多摩のまちなみ建築デザイン賞 日野市賞: 多摩平の森ふれあい館  
 09 照明普及賞 九州支部長賞: 佐賀市立富士生涯学習センター (フォレストふじ)  
 10 照明普及賞 九州支部長賞: 九州大学 (伊都) 総合学習プラザ

12 平成23年 照明普及賞: おおい町里山文化交流センター  
 12 第4回建築人奨励賞: おおい町里山文化交流センター  
 12 平成24年度木材利用優良施設 林野庁長官賞: 九州大学伊都ゲストハウス  
 14 平成25年度照明普及賞 優秀照明施設九州支部長賞: 夕陽の広場展望レストハウス  
 13 第13回 JIA25 年賞: 志賀町民センター  
 14 第14回 JIA25 年賞: 稲沢市荻須記念美術館  
 15 第15回 JIA25 年賞: 沖縄県市民会館  
 15 建築人賞佳作: かもしか荘  
 18 第17回 JIA25 年賞: 田川市文化エリア



# 徳岡昌克・徳岡設計年譜

	1930～1960			1961～1970			1971～1982		
	小学校	中学校	工専	竹中工務店大阪本店設計部所属	米国	竹中工務店大阪本店設計部所属	九州支店	大阪本店	
<b>徳岡昌克</b> <b>私 事</b> <b>社会活動</b>	30 4月20日出生  陸上競技団体 800m競争 甲子園球場及び中百舌鳥陸上競技場にて優勝旗授与される 高槻中学校陸上競技 10,000m競争 学年一位 今津中学校陸上競技 7,000m競争 学内優勝 村社講平氏より記念メダル授与  51 京都工業専門学校建築科首席卒業 51 竹中工務店大阪本店設計部入社			64～65 近畿建築士会協議会 会報ひろば 編集委員 65 日本建築協会 全国工高コンクール審査委員 67 The American Institute of Architect (AIA) シカゴ支部準会員 69～72 近畿建築士会協議会会報 ひろば 常任委員 69～72 大阪府建築士会 評議員 70 ドイツ建築家フリッツ・ボルネマン氏講演会 通訳及び解説			72 日本建築協会全国工高デザインコンクール審査員 72～76 京都工芸繊維大学工芸学部 非常勤講師 73・74 京都府建築士会講習会講師 78～79 日本建築学会九州支部常議員 78～80 日本建築学会九州支部コンペ審査委員 80～81 日本建築学会九州支部評議員 82 マレーシア鉄骨建築技術フォーラム講師		
	<b>作 品</b> <b>業 務</b>  註：1951～64、 1968～82 は 竹中工務店在職中 の担当作品	52 池田銀行本店（設計・監理 石本建築事務所） 53 大阪三信館（設計・監理 市浦建築設計事務所） 54 日本銀行甲東園寮（設計・監理 日本銀行管理部） 55 高知大丸増築、井沢商店、和栗邸、池田銀行淡路支店、富士銀行島之内支店、高知大丸独身寮 57 商工中金富山支所（設計・監理 日建設計工務） 58 大和銀行茨木寮 59 大阪富士ビル（設計・監理 松田平田設計事務所）			61 日本鋼管鉄鋼倉庫 大阪国際見本市 住友信託銀行売布寮 藤沢薬品工業中央研究所 藤沢薬品工業厚生会館 金井重工本社ビル サンケイビル別館 三村邸 三宮ビル 無憂園 守口幼稚園 関西大学幼稚園 65 ムーマ建築事務所 マラデック邸他個人住宅増改築・公共集合住宅 67 C.F. マーフィー建築事務所 コモンウェルス・エディソン・カンパニー／ニュー・マコーミック・プレイス（初期の検討平面企画） 68 東洋紡績敦賀ナイロン工場 69 藤沢薬品工業宝塚グランドハウス 69 日本万国博パビリオン（サンヨー館・西ドイツ館・ポルトガル館・オントリオ館） 70 大阪国際ホテル メタボ阪急 梅田OSホテル 70 ダイエー中百舌鳥ショッピングプラザ			72 藤沢薬品工業研究所 72 鐘紡中央研究所本館 74 明星ビル 75 奈良ディアパークゴルフクラブ 75 江坂東洋ビル 79 十八銀行赤坂支店 79 西海病院 80 スカイハイツ熊本 80 沖縄市民会館 81 八代ロイヤルホテル 82 長崎ワシントンホテル	
 <p>高知大丸</p>  <p>大和銀行茨木寮</p>			 <p>藤沢薬品工業研究所</p>  <p>東洋紡績敦賀ナイロン工場</p>			 <p>鐘紡中央研究所本館</p>			
<b>受 賞 歴</b>	72 第18回大阪建築コンクール：藤沢薬品工業研究所 73 第19回大阪建築コンクール佳作：肥塚行雄邸 77 第18回BCS賞：奈良ディアパークゴルフクラブ 82 第23回BCS賞：沖縄市民会館			84 第16回中部建築賞入選：ダイハツ健康保険組合「びわ湖荘」志賀町 85 第26回BCS賞：稲沢市荻須記念美術館 85 第17回中部建築賞入賞：稲沢市保健センター 89 大阪府建築士会永年会員表彰 89 第30回BCS賞：志賀町民センター 90 第17回日本建築士会連合会会員作品展優秀賞：志賀町民センター 90 第24回SDA賞シンボル部門：天王寺動物園の案内板			91 第10回麗しの滋賀建築賞：志賀町民センター 92 第3回公共建築賞：志賀町民センター 92 日本建築士会連合会会長表彰 93 第39回大阪建築コンクール（知事賞）入賞：大阪府宮高槻城東住宅 93 第8回日本建築士会連合会賞優秀賞：田川市文化エリア 93 第12回麗しの滋賀建築賞：新旭町水鳥観察センター 93 第25回中部建築賞入賞：志賀町立図書館 93 第4回緑のデザイン賞緑化大賞：新旭町役場新庁舎 93 第6回福岡県建築住宅文化賞大賞：田川市文化エリア		



ほとんど厨房機能を止めることなく、夏休みの約1か月での突貫工事。短期間で工事を完成させるために、機能的には食堂は、形を変えるのではなく、人の流れ方を見直し、デザイン的には、既設の天井を黒く塗りつぶして目立たなくし、照明器具や、既設アーチ窓などを強調。テーブルは全て元のテーブルの脚を再利用して、天板だけを取り換え、様々な居場所を設けた。殺風景だったテラス部分には、ルーバーの東屋を3棟設け、約90種類の植物を雑木林のように植栽。季節に合わせて新緑や紅葉、花や果実、鳥や虫など、一年を通して楽しむことができる。長く愛され、学園生活の思い出の場所になることを願っています。

所在地：奈良県北葛城郡  
 用途：学生食堂  
 竣工：2019.09  
 構造規模：RC造2階建  
 敷地面積：41892.63㎡  
 建築面積：1072.488㎡  
 延床面積：1818.058㎡  
 写真：岡田大次郎



帝塚山の閑静な住宅地に位置する今回の敷地は、3方を住宅に囲まれているため車庫との間に水盤のあるテラス、また、キッチン前にはシンボルツリーのある中庭を配し、そこにLDKの開口部を設けることで開放感を確保した。建物は車庫棟と住宅棟に分かれており、外観はそれぞれの層が雁行しながらインタラクティブな関係を生み出している。外壁にはチーク材を多用し、植栽の成長とともに経年変化を楽しむことができる。アプローチには美しい樹形の木々を重ねて配置することで、四季折々の緑を常に感じる事ができ、中庭にはセンターテーブルにヤマボウシを植え込み、緑と木漏れ日を楽しむ事ができる。中庭と連続性を持たせた事で、中庭を中心に営みが生まれ、家族の絆がより深められていくだろう。

所在地：大阪市阿倍野区  
 用途：専用住宅  
 竣工：2018.05  
 構造設計：玉木建築設計事務所  
 構造規模：RC造  
 地上3階建  
 敷地面積：344.7㎡  
 建築面積：121.5㎡  
 延床面積：241.8㎡  
 写真：松村芳治

ユーザー対象の設計相談  
住宅の設計者問い合わせ  
に対応する

# 登録者募集

(公社)大阪府建築士会 社会貢献部門 “住宅を設計する仲間達” 委員会

登録者の個人ページ・・・専用のホームページ内に作成可  
建築士リスト・・・数カ所の機関に配架し、広報活動を展開  
設計相談・設計例展示・・・大阪市立住まい情報センター等

専用ホームページ [www.jutaku-nakama.com/](http://www.jutaku-nakama.com/)  
登録・問合せは (公社)大阪府建築士会 隅原まで  
06-6947-1961 [info@aba-osakafu.or.jp](mailto:info@aba-osakafu.or.jp)

# 住宅を設計する仲間達 建築士 リスト 2018-19

家づくりの  
『住宅  
大阪府  
が得意な建  
あなたにピッ  
お問い合わせく』

公社団法人 大阪府建築士会  
JUTAKU NAKAMA

● トップページ  
● 住宅を設計する仲間達とは  
● 建築士に任せるメリット  
● 具体的な流れ  
● まんが ～家作りストーリー～  
● 土地の選び方  
● 住宅ローンについて  
● 建築士を探す

「希望の建築士」に相談することが、「理想の住まいづくり」への最短距離  
「この人!」と思える建築士に無料でご相談ください

建築士に任せるメリットは何?

お知らせ  
■ パネル展示&セミナー@住まい  
セミナー 3月5日  
■ 「建築家とつくる家」  
■ パネル展示  
■ 「建築家とつくる家」  
■ パネル展示&セミナー

家づくりは、頼る建築士選びから。

「住宅を設計する仲間達」は、住宅を設計するプロ(建築士 建築設計事務所)の集まりです。3,000人が在籍する公益社団法人大阪府建築士会は、住宅一部の有志建築士の集まりを目的に、平成8年に「住宅設計する仲間達」を設立しました。

当サイトでは、作品集や住宅設計の無料相談などのご案内の建築士を設計する仲間達(建築士)の建築士会情報や、住宅設計事務所などの建築士会情報の案内などのご案内をいたします。これから家づくりをする方、家づくりに興味のある方は、ぜひ私たちにご相談ください

自然と住まいがやさしく調和することを心がけています。風や光に季節を感じ、家族の一人ひとりにとって心地よく癒される住まいを“粋でおしゃれに”デザインさせていただきます。吟味した杉で体がよるこぶ空気をつくり、子どもから大人まで 脳を元気に健康で安全で安心して暮らせる家を丁寧につくらせて頂きます。

山本設計企画  
〒592-1117  
06 6927 1051  
06 6927 1052  
e-mail p-office-y@estate.ocn.ne.jp



十五年ぶりになるだろうか、二〇一九年十一月、薄つすら雪景色の中、北海道大学を訪れる機会があった。札幌駅北口から徒歩数分で正門に辿り着く。広大なキャンパスの中央を南北に走る通りの南端に、クラーク記念会館が見えてくる。水平に伸びる大庇と白磁器タイルの外壁がコントラストを成す骨太な外観が印象的だ。地上三階、延床面積約六千㎡の当時としては破格の規模をもつ。設計は、同大建築工学科助教の太田実（一九二二〜二〇〇四年）である。

因みに、掲載誌の『建築文化』は、「学校建築」特集号であり、編集者が地方の近代建築を積極的に取り上げようとしたのだらう、松村正恒の日土小学校も掲載された。太田は、この日本初となる学生会館の設立趣旨について、次のように記している。

「クラーク記念会館といってもモニュメンタルな形式的記念建造物ではない。クラーク精神を現代に生かすことを目標として、その内容は学生会館として出発することになった。都市に核の中心が必要のように、大学内にもそのコミュニティ・センターが必要である。学生生活の中心として、生活的な必要施設のほか、課外のサークル活動を容れ、同時にその横のつながりをつくりだし得るような施設が必要であった。」

（太田実「クラーク記念会館」センターホール）『建築文化』一九六〇年二月号）

戦前にはなかった学生のためのコミュニティ・センターであることに、戦後の息吹を読み取ることができると思う。続いて、特徴的な水平に伸びる大庇について、太田は、「風土化への努力」として、次のよう

「北海道という特殊な風土環境にふさわしい建築にするために技術的にもいくつかの配慮が試みられた。軒庇を大きく張り出したのも、外壁のウエザリング上の保護と同時に水平線を強調するためであった。北海道の広大な土地とくに北大のひろいキャンパスの自然環境には水平線強調の建築の方が適応するように思われたからである。また、この建物のフェーシングとしては、センター・ホールのように動的な使われ方をするとところはガラス張りにして開放感と内

## 記憶の建築 松隈 洋

北海道大学クラーク記念会館 1959年  
北の台地に根ざした近代建築



北側正面外観



センター・ホールを見下ろす

柱・梁のコンクリート躯体を打放しであらわして、モデュールによる空間分割を行い、各室機能に即した素材を活用しながら、同時に同一内容の面には同一仕上を用いて、全館を通ずる視覚上の統一の連続感をつくりだそうとした。色彩の使用は、外部には意識的に乏しくし、白とグレーを基調としているが、内部には積極的に強く明るい色を使用してあたたかみをつくりだそうとした。」

外の空間的融合をあらわしているが、静かな使われ方をする空間はカンティレバーで張り出し二重壁にして小窓構成を試みた。この一見、オーバーをはおったような外装的処理も、風土化への試みのひとつのあらわれである。」

外観の特徴が簡潔に語られている。さらに内部については、次のような説明が続く。

「内部空間の処理については、外部と同様、

「建築と都市にたずさわる設計家や画家に期待されるのは、まさに人間環境のその名に値する人間性の回復であり、それに役立つ解決策の創造と具現化でなければならぬ。いかに困難な矛盾をはらむ現実とはいえ、いたずらにペシミスティックな状況把握の中では、真の感情の解放はあり得ないであろう。巨匠につづく途が、彼らの表面的な形骸や手法の模倣でないことはいまでもない。世に容れられず多くの迫害をこうむりながらも、断乎として堅持しつづけた彼らの内なる創造の精神こそ継承されなければならない当のものである。本書はそのような創造の精神の貴重さと重要性を読む者に深くうたえつつづけている。」

この文章からも読み取れるように、太田は、近代建築運動の先駆者たちの仕事を、翻訳する中で深く理解し、いち早く風土性に根ざすことの重要性に気づいていたのだと思う。大切に維持されている建物を見て、この大著を若い学生たちと読みたくなった。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授、博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

# 理事会報告

文責 本会事務局

日時 二月十九日(水) 十六時〜十八時

場所 本会会議室

出席 理事三名 監事二名

(1) 一月の当期経常増減額は、収入一七、二七五、三八九円、支出一、〇六四、六四八円、差引五、二〇、七四一円で、本年度累計の収支差引九、七八〇、四一九円を報告して承認しました。

三月末の決算見込みは、前月度に比べ半減したものの現在約一、二六万円の赤字決算の見込みを報告しました。

(2) 耐震委員会運営規程の改正

正会員の工事監理の下で行う木造住宅の耐震補強工事について、準委員にも認めることを承認しました。

(3) 日建学院との覚書締結

本会賛助会員である日建学院が開催する講座の本会会員割引に関する覚書の締結を承認しました。

(4) R二R三年度理事・監事候補者の選出

一月二十九日の役員候補者選考委員会において、会長及び各部門からの推薦者二〇名及び一期の任期満了者八名の計二八名の正会員から選考された理事候補者二三名、監事候補者一名を定時総会に諮ることを承認しました。

(5) 万博協会への提案

二〇二五年日本国際博覧会協会の「未来社会のアイデア」募集に、地球環境への配慮や移築・再利用にも適した地場産木材による「木造ペピリオンの建設」を府木材連合会等とともに提案したことを了承しました。

# 建築相談室から四十七

悩める建築士 二

文 橋本頼幸

本会建築相談室には二一九件の電話相談があり、そのうち「建築士・設計監理者」からの相談が一九件ありました。その相談内容を見ると、建築士として、設計監理者として、様々な悩みを抱えていることがうかがえます。今回も前回に引き続きそんな悩める建築士を紹介いたします。

技術的な相談 一

「行政から紹介された。擁壁の上にブロック塀を立てるときの方法を知りたい。ケミカルアンカーなどで大丈夫か？」こちらも前回紹介した確認申請にまつわる相談に似たところがあります。ちょっと面と向かって聞きにくいので、建築士会に聞いてみた、というような相談かと思えます。行政の担当者も回答に困って本会相談室を紹介したのかもしれませんが、本来は自身で解決されるか、構造設計者に判断をしてもらうか、という方法しかありません。

コンクリートブロック塀に関するものでは少し違ったこんな相談もありました。「計画中の隣地に高さ二mのコンクリートブロック塀がある。控え壁もある。近隣説明会で、コンクリートブロック塀について対策を求められたものの、塀は隣地内にあり、所有も管理も隣地所有者で、対応に限界がある。何もしないわけに行かないので、どうすれば良いか？」設計業務の中で、隣地にある構造物や従前からある隣地とまたいで設置されている塀などの取り扱いにまつることはしばしば起ります。正解があるわけではなく、隣地を巻き込んで話し合うほかないのですが、費用負担の問題など判断に困ることはよくあります。

# 技術的な相談 二

「旗竿敷地で、こちらの敷地の窓に面して建築中の建物のベランダが設置されている。五〇cm以上は離れているが、基準はないのか？」

こちらも少し調べたらわかるような内容ではありませんが、他の建築士の意見を聞きたかった、というような事情でしょうか？

設計時の不注意による追加費用の負担

設計業務で起こりがちなこととして、設計業務の不注意や見落とし確認申請機関の指摘や指導によって追加工費が発生することがあります。東海地方の建築士から「確認申請中の物件で、設計で準耐火の使用が抜けていた。施工会社はそのまま工事契約をしたため、防火仕様を契約に入れなかった。いまだら施工に設計ミスと言えないので、全額負担してほしいと言われたが、負担しないといけないのか？」という相談がありました。設計に携わっていると一度や二度は経験があるのではないのでしょうか？ どれだけ丁寧に調べていたとしても、見落としがありあとから指摘される条例や規則などもあり、単純な設計ミスと言いくいものもあります。確認申請が終わるまで工事請負契約をしないほうが無難ですが、資格や講習会は必要？

設計事務所から「鉄筋コンクリート造と鉄骨造の文教施設建物の耐震診断を行うために、防災協会と文教施設協会の講習を受ける必要があるか？」という質問がありました。また「耐震基準適合証明書はどこが発行するのか？」という建築士からの電話もありました。建築士の悩みもさまざま

建築士も色々悩んでいることがみとれます。次回は、建築士だけでなく施工者の悩みや相談についても紹介いたします。

# 編集後記

河合哲夫

徳岡昌克氏の取材を通して、どうしても氏の作品に触れられなくなった。数日間続いた暖かい気候が一変し冷え込んだ曇り空の下、滋賀県大津市志賀町を訪れた。

志賀町立図書館（現大津市立和邇図書館）のドームに包まれる印象的な内部空間は、市民の心象のシンボルに違いない。志賀町民センター（現和邇市民センター）は、比良の山並みに呼応して風景をつくっている。志賀町ふれあいセンター（現大津市木戸コミュニティセンター）は、周囲の建物に完全に溶け込みながら、良質な家並みを生んでいた。志賀町役場（現大津市木戸支所）のルーバーで覆われた外観は、湖面に注ぐ風と光をかたちにしたみたいだ。いずれも遙か昔から存在しているように馴染んでいる。それらは決して雄弁ではない。革命的でも革新的であろうともせず、むしろその逆である。風土や伝統に深い敬意を払いながら、場所の質を高めることに全力を注ぐ。「建築は背景なんだよ」――徳岡浩二社長が語ってくれた昌克氏の言葉。冬の湖西が建築家としての良心に猛省を迫った。

# 建築人 3 2020

監修	公益社団法人大阪府建築士会 建築情報部門		
編集	建築情報部門『建築人』編集部		
	部門長 飯田英二		
	委員長 高原浩之		
	編集人代表 北 聖志		
	編集人 梅田武宏	笠井志保	
	河合哲夫	茂籠一之	
	曾我部千鶴美	橋本頼幸	
	牧野隆義	三谷勝章	
	武藤優哉	若江直生	
事務局	山本茂樹	母倉政美	
印刷	中和印刷紙器株式会社		



# 淡路瓦イズム

## 『古代いぶし 玄武』

朝日窯業株式会社

<http://asahiogyo.com/index.html>

取材：河合哲夫／建築情報部門委員

■淡路瓦のお問い合わせ先  
淡路瓦工業組合  
兵庫県南あわじ市湊 134  
Tel.0799-38-0570 Fax.0799-37-2030  
[info@a-kawara.jp](mailto:info@a-kawara.jp)  
<http://www.a-kawara.jp/>



400年の歴史を持つ淡路瓦は「淡路瓦イズム」を通じ、これからの時代に社会から必要とされる瓦づくりに挑戦を続けています。今年も淡路瓦イズムを実践している会社を紹介いたします。

淡路瓦工業組合には、現在68社の企業が加盟しています。陶器瓦には、デザインや用途により多数の種類があり、それぞれに平瓦と役物瓦があります。さらに仕上げも無釉の瓦と釉薬瓦があり、その中でも様々な仕上げ方法があります。また、屋根以外の用途も敷き瓦だけでなくエクステリア製品やインテリア製品としても拡大しています。そうしたなかで、淡路瓦の各企業は、それぞれが得意とする専門分野により特徴を持っています。

今号で紹介する朝日窯業株式会社は、1805年創業の伝統ある企業です。多くの形状や仕上げの屋根瓦を生産できる体制が整えられており、特注も含め広い対応力を持つこ

とに特徴があります。また、オートメーション方式の生産体制を整え省力化も推し進めることで、お客様のニーズにスピーディでリーズナブルに応える力を持っています。特に近年は、そうした対応力を生かし海外の市場拡大にも注力し、国内外の大型プロジェクトを中心にフィールドを広げています。

「古代いぶし玄武」は、そうした海外市場でも大きな役割を果たしている注目製品です。

淡路瓦は、「なめ土」という肌理の細かい良質の粘土から生み出される品質の高い瓦で、特に銀色に輝くいぶし瓦の生産では国内一のシェアを誇ります。いぶし瓦は、還元焼成という方法で瓦の表面に形成される炭素の幕が光を乱反射することで得られる金属的な光沢の美しさが特徴です。しかしながら均質で美しい仕上がりが、古建築や古い街並みの中で不釣り合いに感じられることがあります。

「古代いぶし玄武」は、従来のいぶし瓦よりも高温で焼成することで、まるで長い年月

を経たかのような自然な窯変による味わいある「黒さ」が特徴で、そうした古建築の景観に相応しい屋根を形成することが可能です。さらに、高温で焼き締められることにより、吸水率を低くすることができ、国内外の寒冷地における凍害への耐久性が飛躍的に向上しました。また表面の硬度が高いことから、金属で激しく引っ掻いても傷が付かない優れた材料に仕上がります。

朝日窯業株式会社は、瓦の形状や仕上げへの高い対応力を持っていることから、その「古代いぶし玄武」を台湾や中国における伝統的な瓦や、特殊な形状に合わせて適応させることができ、市場の要求に応じているのです。

「特殊な形状や困難な条件に挑戦する仕事ほど面白い」と語られる道上哲治常務取締役の言葉の通り、伝統を「守る」だけではなく、新しいニーズに応え続ける淡路瓦に注目して下さい。



嘉麻市立碓井琴平文化館 設計 徳岡昌克

福岡県のほぼ中央部に位置する碓井町は、「碓井郷」の往古より、自然に抱かれ、独自の郷土文化を育んできた。二十一世紀へ向けて文化を軸にした個性豊かな町づくりの拠点として計画された碓井琴平文化館は、郷土出身の詩人画家、織田廣喜画伯の作品を収蔵、展示する美術館、古代から現代までの郷土資料を展示する碓井郷土館、戦争資料や社会活動家の資料を展示する平和祈念館、そして町民への情報提供拠点となる図書館の四施設から構成される。

織田廣喜画伯の作品の常設展示による美術館には、貸しギャラリーとしても利用できる企画展示室も設け、町民の芸術活動全般を支援する施設とした。また、エントランスホールを介して郷土館とつなぐことで管理を集約しながら各館の独自性をもたせるように配慮した。図書館は、中央に大きな吹き抜けをとって天空光を取り入れ開放的な空間構成としている。二階の平和祈念館には、吹き抜けを巡る明快な回遊動線を設定し、単独利用を考慮してブリッジによる個別のアプローチ動線も確保されている。

織田画伯の作風に周辺環境、地域特性を加味し、屋根は玄昌石葺き、壁は織田画伯の自由な画風、温かい人柄、包容力のある人生、あるいはまた芸術作品の永遠に失われることのない生命力を象徴するモチーフとして青海波文様を用いた漆喰塗りとした。公園には竹と笹を主体とした植栽で修景した回遊式の散策路と多目的広場を設け、憩いの場を創出している。

朱と白壁の建築的アンサンブルが木々の緑に包まれ、生き生きとした心豊かな暮らしを演出することを願っている。

受賞：第9回福岡県建築住宅文化賞大賞  
第8回ブルガリア世界建築トリエンナーレウィーン市長賞  
第8回公共建築賞地域特別賞(九州・沖縄地区)  
撮影：SS九州(航空写真)、村井 修

